

積みしづか そうほうちゅうえんふん 積石塚、双方中円墳の謎

去る7月6日に大阪湾近郊の仁徳天皇陵古墳など数々の巨大な前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}を核として、さまざまな規模、形状の古墳を擁する百舌鳥・古市古墳群^{もずふるいち}の世界文化遺産登録が決定しました。それとともに、3世紀中頃から7世紀代にかけて築かれた我が国の古墳の存在と歴史がにわかに脚光を浴びています。

高松市の古墳もその文化財的価値の高さは負けていません。石清尾山古墳群^{いわせおやま}です。石清尾山山塊には、古墳時代前期の積石塚（石を積み上げて墳丘を造った墓）と後期^{もりつちふん}の盛土墳からなる200基以上の古墳が築かれています。そのうち、16基が国の史跡に指定されています。この古墳群は、全国でも唯一、積石塚を築き続けた稀有な古墳群だそうです。また、双方中円墳という形はこの古墳群に特有のもので、左右の方形部が対称なものは、ここにしかありません。中央^{まんなか}（畿内）の様式に染まり切らずに独自性を確保していた気概のようなものを感じ、高松市が古代の貴重な歴史遺産を持つことを誇りに思います。

10年近く前になりますが、平成22年4月、峰山山上の公園に「はにわっ子広場」がオープンしました。周辺が石清尾山古墳群であることから、古墳や埴輪^{はにわ}をモチーフとした大型遊具が設置され、愛称も公募でそれにちなんで名付けられました。特に全長58メートルのローラーライダーは、中心部の馬の埴輪のオブジェを経て、滑り降りる迫力満点の滑り台で人気のスポットになっています。

古墳時代が始まる3世紀中頃は、邪馬台国で卑弥呼が政治を司っていたとされる時期です。しかし、邪馬台国の所在地さえ、畿内説と九州説が有力とされながらも確定できていないように、この時代の日本列島の様子はまだまだ謎に包まれています。子どもたちが、はにわっ子広場で無邪気に遊びながら、この地の歴史の深さと豊かさを肌で感じ、その中から将来、古代史の秘密のヴェールを剥がす研究者が誕生することを期待したいと勝手に思っています。

はにわっ子広場 #upTAK

